

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第364回

塙 保己一

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年7月20日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

人間は小さなことで感情的に 怒るようでは大業は成就しない。

塙 保己一は、江戸時代の国学者。幼名は丙寅にちなみ寅之助、失明後に辰之助と改める。また、一時期、多聞房とも名乗る。雨富検校に入門してからは、千弥、保木野一、保己一と改名した。『群書類従』『続群書類従』の編纂者である。総検校。贈正四位。四男は、国学者の塙忠宝である。

Column

以前このコラムで紹介した渋沢栄一翁、前回のコラムで紹介した荻野吟子さんと同じ埼玉県出身であり、3人とも正智深谷高等学校の近く（深谷・熊谷・本庄）で生まれた、まさに『郷土が誇る偉人』として語り継がれている人物です。

感情的という言葉のイメージは、ネガティブな気持ちになって“心が乱れ（折れ）て自分を見失う”という感じでしょうか。よく言われる“ブれる”というものです。今回の言葉を知って、私は『絶対に達成したい大きな目標に向かって突き進んでいるのなら、なぜそんなに小さなことが気になるのですか？そんなことでブれているようでは大きな目標なんて達成できませんよ！』と指導されているような感覚になりました。人生における経験値と、そこで得た知識の量が多ければ多いほど余裕が生まれ、ピンチの時の感情の処理方法も身についていくものだと思いますし、だからこそ今回の言葉のように小さなことでは感情が乱れない（ようになる）と思います。そういう意味でも大きな目標を達成するためには多くの武器（能力や経験）を手に入れるための大変な努力が必要なのだと改めて痛感させられました。

この言葉を知った時に『感情的になる時もあるよ…』と思った部分は正直言って否定できませんが、あくまでも“小さなことで”という条件付きではありますが、感情的になって怒ることを全否定してはいません。だからといって“これは自分の中で小さなことではない！”と、結局すぐに噛みつこうとするのではなく“よく考えれば小さなことだ”と、『自分の中で消化して、しっかりと切り替えられる力を養ってほしい！』というメッセージが込められているように感じます。自分がある程度の能力や知識を手に入れたら、自分の域まで達していない人を下に見てしまったりイライラしてしまうこともあります。そんな時にそのまま感情的に押さえつけるような勢いで論破したところで目の前の人は成長するのでしょうか。大業を成就させるという壮大な夢はたった一人で成し遂げられるのでしょうか。人に対する思いやりを持たない人に協力や賛同は得られません。どんな知識よりも人の心を大切に、思いやりを持って生きることが夢の実現への第一歩であり必勝法だと思います！